

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193100100		
法人名	株式会社フロンティアの介護		
事業所名	グループホームすみよしの憩		
所在地	岐阜県 可児市 今渡 2348-2		
自己評価作成日	令和7年2月12日	評価結果市町村受理日	令和7年4月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Ijvsvocd=2193100100-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Ijvsvocd=2193100100-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和7年3月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員と利用者で、季節感のある貼り絵や飾りを制作、また、玄関先にも花を育て、季節を感じて頂けるように工夫をしています。  
グループホームということもあり、認知症実践者研修を終了した職員6名、認知症実践者リーダー研修、また昨年からできた、認知症チームケア推進研修を終了した職員が3名いる。その為、認知症の方のBPSDに関し、評価、見直しを行っている。認知症を患っても、その方の尊厳を守り、その方らしい生き生きとした暮らしができるよう、毎月ケアの方向について話し合いを行っている。その際、一人の意見に偏らず、チームで活発に話し合いができています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、住宅密集地から少し外れた場所にあるが、文化センターや公園も近く、生活に便利な場所に立地している。室内は、車椅子でも安全に移動できる広さがある。ブログを毎日更新し、事業所の活動や利用者の様子を配信し、月に2回、インスタグラムでもホームの様子を伝えている。管理者は、職員の意見や要望を法人に伝え、介護支援においての生産性向上に積極的に取り組みながら、働きやすい職場環境作りを行っている。職員は資格取得者が多く、認知症のBPSDについての対応方法、現状の把握、分析、対策等に取り組みながら、日々、介護の質の向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム理念である、住み慣れた地域と職員が連携し、みんなに愛されるより良いグループホームを目指し、質の高い個別のケアを目指そうを目標とし、管理者、職員で話し合い、協力しながら、個別のより良いケアに向けて努めている。	法人と事業所の理念を事務室に掲示している。毎年、事業所独自の目標を決め、今年は「人に優しく、笑顔を忘れず、生産性向上」を毎朝唱和し、意識化を図っている。管理者がその成果を本社に報告し、介護の質の向上に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	SNSなどで情報を発信し、施設の様子を知って頂くことで、グループホームの役割、認知症の方との関わり方を地域の多くの方に知っていただくことができていると思います。また、散歩などを通じて、地域の方と交流を行っています。	自治会に加入している。地域住民の高齢化も進み、地域行事も減っているが、利用者は散歩時に住民と挨拶を交わし、顔なじみの関係ができている。近隣住民からは、介護に関する相談や事業所に関する質問がある。	地域住民が、事業所及び認知症についての理解を深められるよう、行政や地域包括支援センターと連携しながら、介護相談会を行なうなど、交流機会を設ける工夫に期待したい。
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を行い、施設の様子運営状況などをお伝えしています。その際に質問や意見などを頂いています。その意見を元に、改善すべきことは改善を行い、評価頂いたことについては、更にサービスの質の向上に努めています。	運営推進会議には行政、民生委員、地域包括支援センター、家族等が参加し、活発な意見交換を行っている。自治会からは災害時の応援要請に応えられるとの声のかけがあり、地域包括支援センターからは、認知症カフェへの参加依頼もある。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の場で、施設の様子をお伝えし、行政からは市内の介護状況などをお聞きし、運営の参考にしています。施設のプログ等も見ていただいているようで、施設行事などにも、興味を示され、質問やお褒めの言葉を頂いています。	行政から研修案内が届き、補助金制度の情報は法人からのメールで把握している。運営推進会議への参加があり、利用者の様子をブログ等で発信している事への評価を得ている。運営で不明な点や疑問点は、窓口に向いて相談し、協力関係を構築している。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	まずは、利用者様の尊厳や人権を守ることが、ケアを行なう上で最も重要であると、どの職員も意識しケアに取り組んでいます。身体拘束の内容についても、定期的に勉強会を行い、正しく理解しています。玄関は防犯上施錠を行っておりますが、それ以外は施錠なく自由に過ごしてみえます。	身体拘束廃止について、定期的に委員会を開いている。全職員に議事録を閲覧させ、会議内容を周知している。身体拘束についての研修も定期的に法人内で実施し、レポート提出を行いながら、対策等を話し合っている。また、利用者の現状について話し合いながら、穏やかに安全に暮らせる支援に取り組んでいる。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的高齢者虐待についての勉強会を行い、自施設での虐待と思われる行為があった場合は、早急に報告することを徹底し、また家族からの虐待が疑われる場合は、関係機関と協働しながら、速やかに対応します。	虐待防止に関する委員会を開催し、議事録を整えて職員に周知している。運営規定にも虐待防止について明記している。身体拘束同様、危険な事案の分析と対策は、毎月コンプライアンス委員会で話し合っている。身体拘束廃止と虐待防止はオンライン研修でも学んでいる。	

岐阜県 グループホームすみよしの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について勉強会を行っている。 現在、成年後見制度を利用されている方に対しても、関係者とやり取りを行い支援に繋がっています。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族は、契約、解約時に不安や分からないことがたくさん出てきます。分かりやすく、ゆっくりと説明を行い、質問に対しても、丁寧にお答えします。改定等に関しては、書面にてお知らせし、質問があった際は、丁寧にお答えしています。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族から意見、要望があった際は、施設内にとどめることなく、本社等に報告を行い、運営に反映させています。家族が言うことをためらうことがないように、常に手紙等でも「何かご要望等あればお知らせください」とお伝えしています	常に、家族の意見・要望を把握できる体制にある。運営推進会議にも多くの参加を得ており、様々な意見を運営に反映させている。家族の思いと利用者の思いのズレが生じた場合は、現状を家族に説明しながら、利用者や家族の良好な関係作りに努めている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議やフロア会議、個々の職員の面談、常に職員が意見や、相談、要望等を言える環境を作っています。その為、フロア会議は活発な意見が沢山あがり、改善に繋がっています。	法人が生産性向上推進に取り組む中で、現場の職員の意見を聞き、運営に活かしている。職員は、日頃から管理者やリーダーに意見・要望を伝え、速やかに改善につなげている。法人の判断を仰ぐ内容は、事業所の要望として挙げている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	各種資格手当や責任能力に応じた給与体系を取っており、資格を取得した際には、祝い金も支給されます。 また、希望休をシフトに反映し、長期旅行等も行いやすい環境を整えています。	個々の希望に沿ってシフトが組まれている。有給休暇取得や各種資格手当もあり、働きやすい環境が整備されている。全職員がインカムを使用しながら、常に情報共有ができる為、休憩時には休憩室で適切に休むことができる。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で資格を取れるスクールが充足しているため、無料、また勤務時間内で資格を取得することができます。 外部研修に関しても、常時、職員に周知を行い、研修への参加を勧めています。	法人内で、職員が希望する研修を受講することができる。法人は「ほめて委員会」を発足させ、職員間で互いに褒めあいながら、意識の向上とモチベーションアップに繋がっている。資格手当も支給されている。	職員は、資格取得に向けて、研修を受講しながら意欲的に取り組んでいる。職員それぞれが、更なるレベルアップに向けて、自身が目指す資格と研修内容がわかりやすい一覧表作りを提案したい。

岐阜県 グループホームすみよしの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者研修、リーダー研修は本社にて集合し、行っています。その中で、グループディスカッションの時間があり、質問や相談、意見などを交わし、交流を深めています。定期的に親睦会も行っています。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は認知症になってしまったから何もできなくなってしまったと考えるのではなく、認知症になっても、できることをお願いし、本人の自身に繋げています。その際は、ありがとうございますと声をかけることで、ここで役に立っていると思って頂いています。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者全員に月に一度、要望を聞く機会を設け、記録にも残し、職員間でそこについて話し合いを行っています。またコミュニケーションと取ったり、日頃の行動、言動、表情から、情報収集を行い、ケアに反映できるよう話し合いを行っています。	利用者からの要望は、主に食事に関することが多い。意思伝達が困難な利用者の仕草や表情から、思いを読み取り、希望に沿えるよう、毎月の職員会議で話し合っている。新たに把握した情報は個別記録にも残し、全職員で共有している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、居室担当者職員によるモニタリングを行っています。また、本人、家族から希望や要望を伺い、多職種の意見も反映しながら、職員間でサービス担当者会議を行って介護計画に活かしています。	職員は、2人の利用者を担当し、毎月、本人と家族に要望や思いを聞いた記録を残している。その記録と理学療法士等の多職種から得た情報を基に、ケアマネジャーが利用者の現状に合った個別計画を作成している。家族にも、その都度説明し同意を得ている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ファーストケアにて、日々の様子を介護記録に残しています。気づきや変化などを記録に残すことで情報共有できています。また、ケアの見直しがあった場合も記録に残すことで、職員全員に周知ができています。	個別記録の情報を職員間で共有し、ケアプランとの連動させながら、支援を提供している。その中で日々の気づきや変化も記録し、利用者の状態に即して、介護計画の見直しに活かしている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況、ニーズの変化があった場合は、丁寧に話しを伺い、その状況にあったサービスを提供しています。また、サービスが適正であったかモニタリングを行っています。	協力医以外の医療機関への受診は、基本的に家族同行となっているが、都合がつかない場合は有料で職員が付き添いしている。また、利用者の要望を受けての買い物は、職員が代行し対応している。	介護度の低い利用者との散歩の際に、買い物をしたり、ホーム内で販売店を真似たレクリエーションを行うなど、日常とは違う気分転換を図れる工夫に期待したい。

岐阜県 グループホームすみよしの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナから外部との交流が途絶えていたが、認知症カフェなどに参加する機会がありました。散歩などをしていると、声をかけていただくこともあり、地域で見守っていただけていると感じます。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回のかかりつけ医の受診の際は本人、家族の意向を代弁し、適切な医療が受けられるように支援に努めています。外部の医療を受診する際は、手紙等で情報共有を行っています。	協力医の往診と薬剤師訪問が月2回ある。外部医療機関への受診は、利用者情報を提供している。訪問歯科医、栄養士、歯科衛生士等の訪問もある。利用者は、3か月に1回、理学療法士指導の下で運動も行っている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時に介護サマリーを作成し、往診医から入院先の医療機関へ情報提供を行っています。入院時は時々状態の確認を行い、家族とも電話などで話し合いを行いながら、早期退院に向けて、必要な準備を行っています。	入居時に、本人の希望医療機関を聞き、入院する場合は協力医からの意見も参考に対応している。退院時のカンファレンスには管理者かリーダーが参加し、退院後のリハビリ支援は理学療法士の指導を受け、事業所での受け入れ体制を整えている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、ホームでの看取りについての説明を行い、本人、家族の意向について話し合いを行い、書面に残しています。重篤化した場合は、主治医、家族と話し合いを行い、本人が望む終末期のケアが行えるように努めています。	全職員が看取り研修を受講し、利用者と家族の希望する方法での看取りを行っている。「看取りケア気づきノート」があり、全職員が目を通して、次に活かせる工夫がある。看取り間近には、家族の付き添いも可能としている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生に備えて、会議等で周知しています。また、事故が起こった場合のマニュアルを掲示し、必要な書類などをまとめて用意しています。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1年に2回、火災訓練を行っています。また、1年に1回以上、災害訓練を行い、市の方へ、報告を行っています。避難場所として、市の施設を利用する場合も想定されています。	火災訓練では、職員が車椅子に乗り、利用者を安全に避難することができるかの検証をしている。自治会から、災害緊急避難所が遠いため、地域で協力する体制が整っていると申し入れがあった。BCPを整備し、年2回の訓練をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケアの前には、言葉をかけ、確認をとってからケアを行っています。 人生の先輩であることを心にとめ、しつけのような声かけにならないよう、勉強会を行い、お互いに注意しあっています。 接遇に関する朝の唱和を行っています。	法人のコンプライアンス委員会にリーダーが参加している。接遇5原則を基に、ケア方法や利用者に向けての姿勢など、自己評価を年3回行い、管理者が法人に報告している。利用者への言葉遣いや対応が不適切と思われる場合は、職員同士で注意し合っている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一方的なケアにならないように、確認を行ってからケアに当たっています。言葉が上手く出ない利用者に関しては、表情や行動を観察し、その方の思いを察して、希望に添えるように支援しています。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは決まっていますが、本人の体調、気分を考慮し、支援にあたっています。お部屋で過ごしたい方に関しては、自由にフロア、居室を行き来していただいています。無理強いしないケアに努めています。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者から要望を伺い、行事などで、希望に添えるメニューに変更しています。 食器の片付けや、お盆拭きなど、無理強いしない程度にお願いし、職員と一緒にしています。	食事メニューは法人の栄養士が作成している。業者から食材が届き、職員が交代で調理し、提供している。月に1度はイベント食で季節を感じられる献立になっており、おはぎなどのおやつは、利用者も一緒に楽しみながら作っている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、食事量、水分量を記録しています。 看護師、栄養士と情報共有しながら、アルブミン値が低い方、水分量が低い方に関しては、助言、指導を受けています。 心身の状態に応じ、食事形態、自助具、好みを把握して見直しを行っています。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをできる限り本人に行っていただいています。上手くケアができない方に関して仕上げ磨きなどの支援を行っています。 歯科衛生士から、口腔ケアに関する指導、助言を受けています。	毎食後の歯磨き習慣が定着しており、利用者自身で行っている。ケアが難しい利用者は、職員が支援している。夜間は義歯を預かり消毒しているが、夜間も義歯を外したくない人には、消毒後に渡している。希望者は歯科衛生士の指導も受けている。	

岐阜県 グループホームすみよしの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の排泄パターンや、排泄のサインを把握し、その時間やタイミングに合わせてトイレ誘導を行っています。 また、夜間はゆっくり休んで頂く為、パットの吸収力の良い物にしてオムツ交換の回数を極力少なくしています。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は決まった曜日、週2回を基本にしています。なるべく本人の希望に添えるように、入浴の順番を考えています。また1人ずつの入浴ではありますが、タオルで隠すなど、プライバシーに配慮しています。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、傾眠される利用者に対しては、昼食後に1時間程、居室で横になるなどの支援を行っています。また、本人の意向、眠気の状態に応じて、居室で休んでいただいています。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診情報は往診記録のファイルがあり、それを閲覧することで、薬等の変更を確認したり、副作用や注意事項などは、リーダーが申し送りで記入し、業務に入る前に確認するなどの仕組みができています。また、薬事情報などは法人独自のシステムで個別に確認できます。	職員は業務に入る前に往診情報を把握し、服薬に関する情報を確認している。QRコードにて管理しており、誤薬防止に努めている。処方に変更があった場合は、申し送りで情報を共有、利用者の様子を注意深く観察している。変化が見られた時には、看護師や医師に連絡し指示を仰いでいる。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前に本人の生活歴や嗜好などをお聞きし、施設に入居しても、可能な限り、本人の希望に添えるよう、環境を整えています。また、本人の能力に応じた役割に参加して頂き、張りのある生活を送っていただくよう努めています。	読書や花の水やりなど、利用者の趣味が継続できるよう支援している。洗濯物たたみや新聞たたみ、廊下の掃き掃除等、できることで役割として関わられるよう支援している。職員は、労いと感謝の声掛けで、張り合いと自信につながられるよう努めている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週に2回、散歩の日を設け、天候が良ければ、近所の散策に出かけます。家族の希望により、外出の機会を設けています。徐々にコロナ前のような、全員での外出の機会を作りたいと思います。	入浴介助の無い日は、近隣の散歩等で気分転換を図っている。家族の希望を受け、感染対策をした上での利用者との外出も許可している。桜の花が咲く頃に、ノンアルコールビールを提供して楽しんでもらう外出支援を予定している。	

岐阜県 グループホームすみよしの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでの金銭管理は行っていませんが、利用者、家族の意向がある場合は、個人の金銭管理の支援は可能であります。個人でお金を使用する場合は、家族に確認をとってから、支援にあたっています。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の家族、知人から電話があった際は取り次ぎ、やり取りができるよう支援を行っています。耳が遠いなど、聞き取りが困難な場合は、やり取りの仲裁に入る場合もあります。施設に届いた手紙等は本人に必ず届けています。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じていただけるような、置物や貼り絵、飾りなどを用意し、飾っています。また、室内であっても花や緑を感じていただけるように、工夫しています。体温や湿度を確認し、最適な温度、湿度になるようエアコン、加湿器で調整を行っています。	居間やトイレ、浴室等、どこも広々として開放感がある。ユニット間を自由に往来でき、居室を行き来する利用者もある。居室の壁には、家族が持ち込んだ物や利用者の作品が飾られ、季節感にあふれている。キッチンからは食事の匂いが漂い家庭的な雰囲気である。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのテーブル席については、本人たちの様子を見て、トラベルがないよう、安心して座って頂けるよう席替えを行っています。テーブル席ばかりでなく、ソファにも移動し、TVなどをゆっくりと鑑賞できる空間を設けています。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	貼り絵などを用意し、殺風景な居室にならないように努めています。また、入居時は使い慣れた枕を持ってきて頂くよう相談しています。体温や湿度を確認し、最適な温度、湿度になるようエアコン、加湿器で調整を行っています。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、居間、お風呂、脱衣所の壁面には、手すりが設置されており、移動、移乗時の安全に配慮されています。また、居室には名札があり、トイレは分かりやすいように、大きな文字で表示されています。		